

Lawrence Livermore National Laboratory 副所長ら来訪

スーパーコンピューティング部門

我が国における HPC 事情視察のために来日中の米国 Lawrence Livermore National Laboratory (以下 LLNL) の幹部が 2012 年 2 月 23 日 (木) に情報基盤センター (柏キャンパス) を訪問した。訪問者は、以下の 3 名である：

- Ms. Dona L. Crawford (Associate Director, Computation Directorate)
- Mr. John Grosh (Deputy Associate Director, Computation Directorate) ,
- Dr. Frederick H. Streitz (Director, Institute for Scientific Computing Research)

LLNL の紹介のあと、情報基盤センターにおけるスーパーコンピュータ導入の現状、研究活動紹介、施設見学を実施し、情報交換・意見交換を実施した。

LLNL は米国エネルギー省 (US Department of Energy, DOE) 配下の国立研究所として HPC 分野では最もアクティビティの最も高い研究所の一つであり、ASCI White, Blue Gene/L などのスーパーコンピュータを導入・稼働させて来た実績がある。現在は Sequoia (ピーク性能 20 PFLOPS 級, IBM Blue Gene/Q ベース) の導入を実施中であり、完成・稼働の暁には TOP 500 の上位を占めることは間違いない。

またマルチグリッド法を中心とした大規模並列計算機向け数値アルゴリズムの研究開発においても世界をリードしており、hydre などのライブラリを公開している。様々な研究機関との共同研究の他、最近は企業利用も開始したということであり、当センターにおける企業利用への取り組みについても熱心な質疑があった。また当センターにおける研究活動、特に自動チューニング (Automatic Tuning, AT) 分野の研究、当センターのアメリカを中心とした国際的な研究協力活動についても様々な議論があった。

当情報基盤センターと LLNL とはこれまで組織的な交流が無かったが、今後は情報交換・意見交換を積極的に実施していこうということで閉会となった。



情報基盤センター教員と LLNL との意見交換の様子



計算機室にて石川センター長 (中央) から説明を受ける Crawford LLNL 副所長